

平成25年度 第2回簡易耐震化工法検討委員会WG合同会議 議事録(案)

日時：2013年6月21日 15:30~17:00

場所：徳島県木材利用創造センター

出席者：宮本、小杉、後藤、坂田、富永、松田、内野、日下(フレッセ) 議事録：日下

1. シェルター

<現場からの要望>

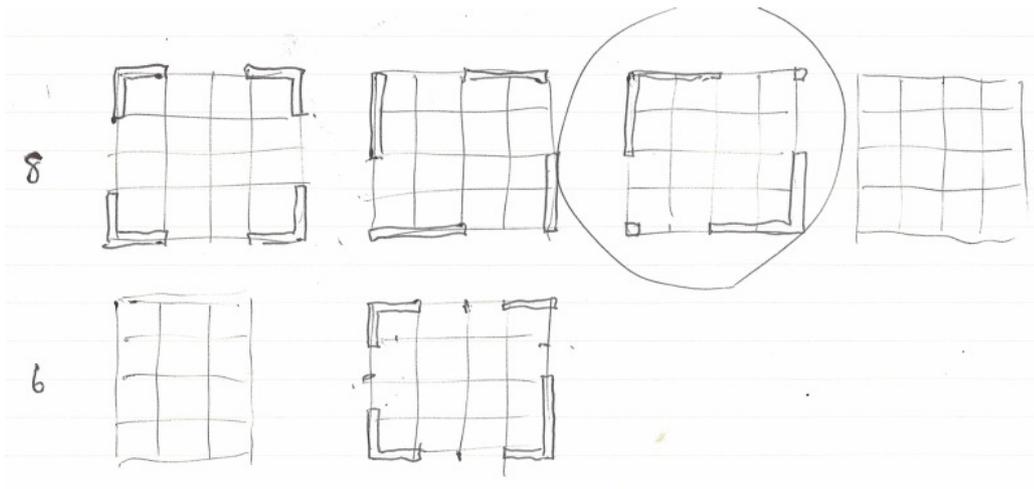
- ・天井高がない場合、HDが入れにくい。
- ・壁パネルはHDが入れ易い様に間柱の位置に工夫が必要。
- ・現場の広さに合わせた自由度のある構造にできないか。

<施主からの要望>

- ・既存の出入口とうまく合わない。
- ・もう少し広ければ。ベッドを入れると狭く感じる。ベッド二台入れたい。
- ・天井が低く感じる(2100)。もっと高くできないか。圧迫感がある。壁天井を白くして解消・・・

<その他>

- ・採光や棚を作るなど広く見せる工夫をしても、既存壁との間に無駄なスペースが出来てしまう。
- ・耐力壁は一面あたり一間あれば。角が柱になる場合は要検討。パターンを検討する。



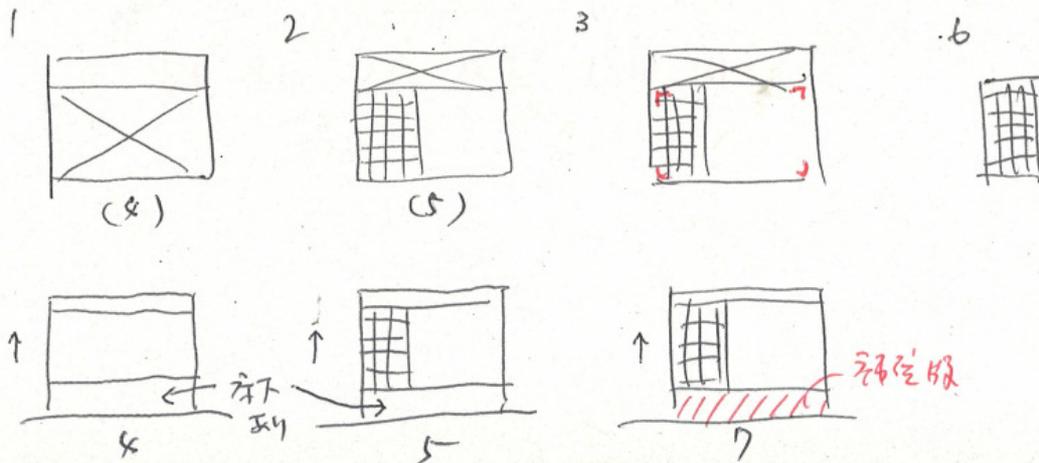
- ・接合金具の検討。10knであればHDではないコーナー金物もある。→天井高あげられる。
- ・モジュール→6畳、8畳ともに3タイプに対応：910、950、985
- ・耐震シェルターの卒論一式→小杉さんから宮本さんへ(フレッセでPDF化して全員に配布)
- ・シェルターに何か新しいものを入れられないか?→シェルター内で通常の生活(快適な)が送れるような配慮?→快適性と安全のバランス・・・
- ・材料、水平構面、鉛直構面の検討
- ・材料の要素データ
- ・スギの無等級 or JAS 材目視等級2?→基本的に無等級。必要に応じて指定する。
- ・実験の進め方：床・天井の水平強度の実験→6畳で実大試験→8畳へ
- ・データ：材料実験(縦横圧縮、せん断、引張)参考値ならあり。壁パネルもあり。
- ・設備：コンセント、照明、エアコン

2. 耐震建具

<試験体の検討>

- NO.4 と No.5 → 垂壁が小さくなくても単純に比較検討出来る。
- 敷居下の設定は一般的なものに。 → 宮田さんと協議
- 鴨居の補強が建具業者さんだけで可能か？
- 基礎、土台が無く、床下が高いバージョン → 試験機のサイズから高さ 3 m まで → ジャッキ芯でベースからの高さが 3,160。最大 3,260 まで可（前回より 300 程度大きくできる）
- No.4 東石の上に建てることを想定 → 柱を固定する治具から設計する必要あり。
- 内法から敷居鴨居まわりを補強する方法を次回もちよって協議。
- NO.4 と No.5 の結果をみて、床下の補強について検討し、NO.5 の補強版試験を行う。 → NO.7
- No.3 (No.2 の補強試験体) → 金物等で
- 耐震建具のカマチ → 柱に接する側は上下のカマチを勝たせることで敷居鴨居の補強とする。
- No.4 と No.5 の実験に使用する耐震建具は去年のものとする。

No.	試験体仕様	備考
1	垂壁あり、建具なし	基本形
2	垂壁なし、補強建具あり	
3	No.2 の補強試験体	補強方法は要検討
4	床下に基礎なし、補強建具あり	
5	床下に基礎なし、建具なし	No.4 と比較のため
6~	新型建具単体	



- 昨年度の試験の図面を集めて宮本先生へ。測点数、配置など、昨年度を踏襲するため。

3. その他

- 北島防災センター、耐震建具を展示したい。 → 試作品の見本品製作（講習会にも使える）
- 実験器具：ゲージ、スイッチボックス等の準備 → 後藤さん（坂田さん）
- 会議の進め方：事前に議題を各自に送る（+議事録） → 議題の内容から各自必要な資料を持ち寄る。
- 議事録は、メモ作成者 → 内野 → 小杉 → 全員に配布
- 次回開催日 7月5日 10:00~